浮世の苦楽は壁一重

我々が快楽を求めるのは如何なるときか
それは日々の生活でたまったまった苦しみから解放されたいとき

ではどういった方法で快楽を得るかというと、それらは寺ら
買い物や旅行などで非日常を感じることで得ようとされることが多い

非日常の快楽は一時的なものでしかない
都市に住む快楽を感じるには、苦を受け入れ、日常こそが快楽と認識することだ
楽と苦は相容れないが互いに近くに存在し、必要不可欠である
快楽を感じるにはまず苦を味わうことが必要になる

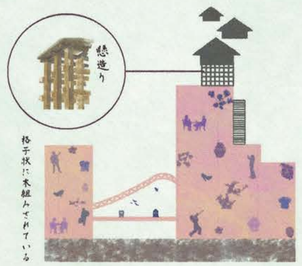
日々の生活に制限を与えると当然苦しい
都市という娯楽のすぐそばにある場所に身を置き、多くの他人と出会う
刺激し合いながら生活を共にする
その経験を経て再び都市に赴くと、
普段の衣食住が感謝すべきものであったことに気づく

非日常ではなく日常、一時的ではなく継続的
それが快楽

快楽＝苦を伴う日常

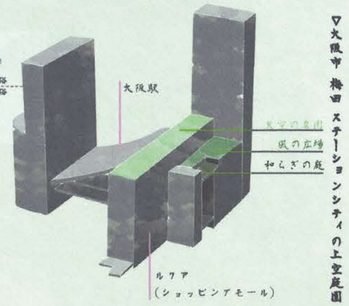
○快楽とは
実はすぐそばにあるもの
内に入った時ではなく外に赴いたときに
都市に寄せがあると気づく状態のこと

○都市とは
離れた快楽を求める人々が住む場所
何気ない生活のなかには実は快楽であふれている。
特に都市に住む人々は、
近くに在る快楽に気づいていない。
地方を尋ねて、都市から離れた快楽を手にしがち。



○設計目的
都市にすむ快楽を再認識すること

○敷地設定
すぐ近くに快楽がある場所
▽大阪市 梅田 ステーションシティの上空庭園



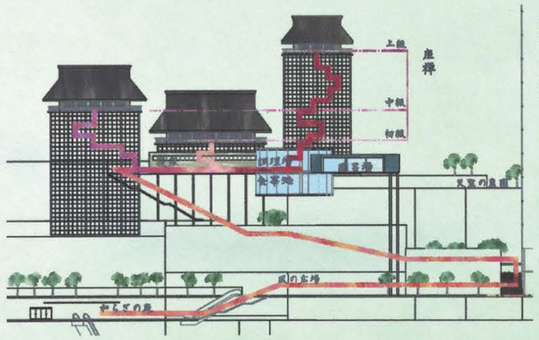
実際の修行僧の文章は
山に登る。
娯楽や様々な情報から
遠く上空へ離れるように

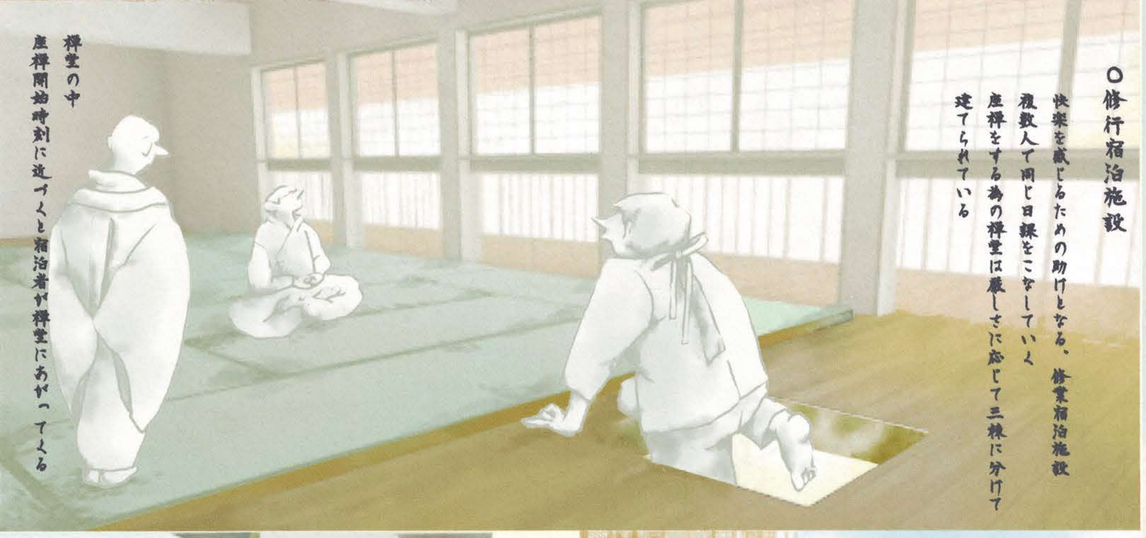
修業に専念する
高層の建物の上に
計画することは
これにリンクしている
上空に行けば行く程
都市の雑踏は聞こえず、見えない

○ジャンプルジム
都市かつ快楽の象徴

ジャンプルジムは柱が交錯していて
一見でちゃでちゃとして見える
中に入ると自分の現在地も
分かりにくくなる
ジャンプルジムはまるで都市そのもの
そのジャンプルジム(都市)を登りきることによる
達成感という、ひとつの快楽をあらわす

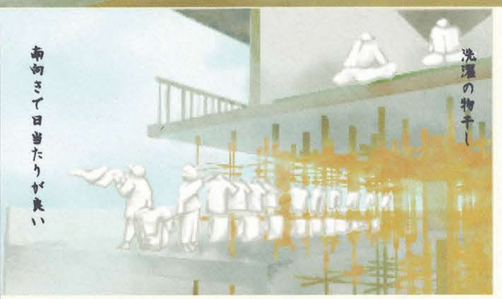
○アクセス
登り方が変化する
▽修行宿泊施設、玄関(
ルクアから和らぎの庭(出る
エスカレーター又は階段で風の広場(
そして長い階段を登り
天空の庭園にある玄関で受付をする
▽修行場、禅堂(
天空の庭園から三コースに分かれている
懸造りで構成されたジャンプルジムを登る。



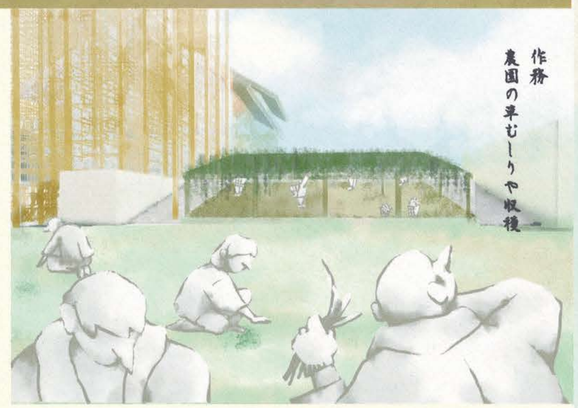


○修行宿泊施設
快楽を感じるための助けとなる、修業宿泊施設
複数人で同じ日課をこなしていく
座禅をする為の禅堂は厳しさに応じて三棟に分けて
建てられている

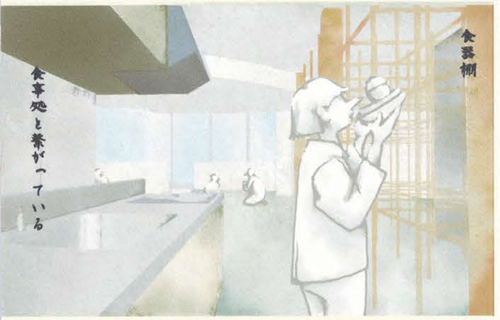
禅堂の中
座禅開始時刻に近づくと宿泊者が禅堂にあがってくる



洗濯の物干し
南向きで日当たりが良い



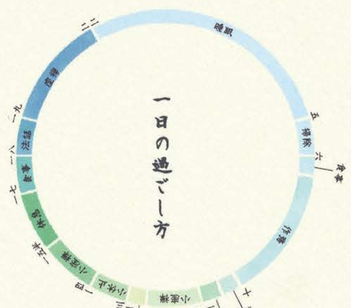
作務
農園の耳むしりや収穫



食器棚
食事処と茶が一っている

寝具棚
就寝

○ジャンプルジムの活用
日常的な場面で役立つジャンプルジム



五時に起床後、太極拳を行い、
特殊場所や一日の予定の確認等をする会議をする
座禅はそれぞれのコースで一五分、二五分、三五分が一セット
小座禅は二セット、夜の座禅は三セット
三五分コースに全体のスケジュールが合わせられる
食事は作法に従い、決して音を立ててはいけない
風呂は入る時間を朝の会議で決め、休憩中に
髪の毛を乾かす時間なども含めてひとり一五分の間で速やかに入る